

第113回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	受取手形
売掛金	未収入金	満期保有目的債券	仮払法人税等
備品	売買目的有価証券	消耗品費	固定資産売却益
未払金	備品減価償却累計額	売上	有価証券評価益
有価証券利息	有価証券売却益	還付法人税等	支払利息
減価償却費	追徴法人税等	仮受金	有価証券売却損
固定資産売却損			

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
2. 朝比奈商店は、平成20年7月12日に、額面総額 ¥ 1,000,000 の社債（利率は年3%、利払日は4月末および10月末）のうち半分を、@ ¥ 99.00 で売却し、代金は端数利息とともに当座預金に振り込まれた。なお、この社債は、平成20年6月1日に @ ¥ 98.50 で売買目的のために購入したものである。端数利息は売却日までの日割りで計算する。
3. ㈱岡部商事は、過年度分の法人税等について更正を受け、税金の還付額 ¥ 500,000 が当社の当座預金に振り込まれた。
4. 井伊商店では、デスクトップパソコン ¥ 200,000 および、プリンターのインク代 ¥ 10,000 の支払いのため作成した2通の小切手が、決算日現在、未渡しであることが判明した。なお、当店は、これらの小切手を作成した際に、当座預金の減少として処理していた。
5. 関口商店（年1回、3月末決算）は、平成20年6月30日に備品を ¥ 3,000,000 で売却し、代金のうち半分を現金で受け取り、残額は翌月10日に受け取ることにした。この備品は、平成19年4月1日に購入（購入代価 ¥ 3,900,000、直接付随費用 ¥ 100,000）した固定資産であり、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は9年、償却方法は定額法、記帳方法は直接法によっている。当期分の減価償却費も月割計算により合わせて計上すること。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
2	当座預金	498,000	売買目的有価証券 有価証券売却益 有価証券利息	492,500 2,500 3,000
3	当座預金	500,000	還付法人税等	500,000
4	当座預金	210,000	未払金	210,000
5	減価償却費 現金 未収入金 固定資産売却損	100,000 1,500,000 1,500,000 500,000	備品	3,600,000
別解	減価償却費 現金 未収入金 固定資産売却損	100,000 1,500,000 1,500,000 500,000	備品 備品	100,000 3,500,000

・解説

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

2. 有価証券の売却に関する問題です。

本問はまず、問題文の「額面総額 ¥ 1,000,000 の社債（利率は年 3%、利払日は 4 月末および 10 月末）のうち半分を…」の「半分を」というところを丸で囲むなりラインを引くなりして目立たせておいてください。

本試験では、この「半分を」という指示を見落として、半分だけではなく全部の有価証券を売却した仕訳を切ってしまった受験生がかなりいたようです。

この作業をしたうえで、「有価証券利息を受け取った仕訳」と「売買目的有価証券を売却した仕訳」を分けて考えましょう。

まず「有価証券利息を受け取った仕訳」からです。問題文に「端数利息は売却日までの日割りで計算する」とあるので、前回の利払日の翌日から売却日までの 73 日分（=31 日+30 日+12 日）の有価証券利息を計上します。これは以下のような計算式で算定します。

$$500,000 \text{ 円} \times 3\% \times 73 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = 3,000 \text{ 円}$$

★解答①

(借) 当座預金 3,000 / (貸) 有価証券利息 3,000

次に「売買目的有価証券を売却した仕訳」を考えますが、こちらは簡単なので特に問題はないと思います。有価証券の売却損益は、帳簿価額と売却価額の差額で求めます。

■ 有価証券の帳簿価額 = $500,000 \text{ 円} \times 0.985 = 492,500 \text{ 円}$

■ 有価証券の売却価額 = $500,000 \text{ 円} \times 0.99 = 495,000 \text{ 円}$

■ 差額 = 2,500 円 (帳簿価額 < 売却価額…売却益)

★解答②

(借) 当座預金 495,000 / (貸) 売買目的有価証券 492,500
(貸) 有価証券売却益 2,500

最後に 2 つの仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。

有価証券の売却に関する問題は、第 105 回の問 2 や 第 107 回の問 1、第 111 回の問 1、第 116 回の問 2、第 118 回の問 4、第 119 回の問 3、第 121 回の問 2、第 122 回の問 3、第 125 回の問 2、第 133 回の問 2、第 137 回の問 5 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 法人税等に関する問題です。

法人税等の還付を受けた場合 (= お金が戻ってきた場合) は、**還付法人税等勘定**で処理し、法人税等の追徴を命じられた場合 (= お金が出て行く場合) は、**追徴法人税等勘定**で処理します。

本問は、知っているか知らないかを問うだけの簡単な問題なので、更生により資産が増えたら【還付】で、資産が減ったら【追徴】と割り切って覚えてしまいましょう。

法人税等に関する問題は、第 102 回の問 2 や 第 107 回の問 2、第 112 回の問 3、第 119 回の問 4、第 122 回の問 5、第 127 回の問 5、第 136 回の問 2 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 銀行勘定調整表に関する問題です。

銀行勘定調整表の問題は、第 1 問の仕訳問題だけでなく第 3 問・第 5 問の総合問題での出題も考えられるので、中でも頻出論点である未渡小切手は必ず出来るようにしておいてください。

ではさっそく問題を解いていきましょう。問題文に「**デスクトップパソコン ¥ 200,000 および、プリンターのインク代 ¥ 10,000 の支払いのため作成した 2 通の小切手が、決算日現在、未渡しであることが判明した。**」とありますが、これがいわゆる**未渡小切手**です。

小切手を振り出し、支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので、当座預金の減少を取り消すとともに、パソコン代およびインク代の未払いについては、未払金勘定を使って処理します。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 備品 200,000 / (貸) 当座預金 210,000
(借) 消耗品費 10,000

★解答・未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 210,000 / (貸) 未払金 210,000

ちなみに、買掛金について未渡小切手があった場合には未払金勘定ではなく買掛金勘定になるので、間違えないように注意してください。

銀行勘定調整表に関する問題は、第 100 回の問 4や第 101 回の問 1、第 105 回の問 4、第 111 回の問 2、第 115 回の問 5、第 116 回の問 5、第 123 回の問 1、第 125 回の問 3、第 133 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の売却に関する問題です。

今回の問題は少し分かりにくいので、参考までに固定資産購入時の仕訳から順番にチェックしていきましょう。

☆参考・平成 19 年 4 月 1 日（固定資産の購入）

(借) 備品 4,000,000 / (貸) 現金など 4,000,000

☆参考・平成 20 年 3 月 31 日（減価償却費の計上）

(借) 減価償却費 400,000 / (貸) 備品 400,000

まず、購入代価 3,900,000 円に付随費用 100,000 円を足して購入原価 4,000,000 円を算定し、固定資産購入の仕訳を切ります。次に、決算期末に 4 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年分の減価償却費を計上します。なお、平成 19 年度の貸借対照表に表示される備品の金額は **3,600,000 円**になります。

固定資産に関しては上記のような流れで仕訳が切られているので、理解が不十分な方はテキストに戻って復習してください。

では早速、仕訳を考えていきましょう。本問は、問題文に「**当期分の減価償却費も月割計算により合わせて計上すること**」とあるので、当期の減価償却費を計上したうえで、売却の仕訳を考えていきます。

まず減価償却費のほうですが、これは 4 月 1 日～6 月 30 日までの 3 か月分の減価償却費を計上するだけなので、特に問題はないと思います。年間の減価償却費 400,000 円を 4 で割って、100,000 円を算定します。

★解答①…減価償却費の計上

(借) 減価償却費 100,000 / (貸) 備品 100,000

なお、上記の仕訳を切ることにより、固定資産の帳簿残高は $3,600,000 \text{ 円} - 100,000 \text{ 円} = 3,500,000 \text{ 円}$ になるので、この金額を元に売却の仕訳を考えていきますが、こちらも簡単なので特に問題はないと思います。固定資産の売却損益は、**帳簿価額と売却価額の差額**で求めることができます。

■固定資産の帳簿価額 = $3,600,000 \text{ 円} - 100,000 \text{ 円} = 3,500,000 \text{ 円}$

■固定資産の売却価額 = 3,000,000 円

■差額 = 500,000 円（帳簿価額 > 売却価額・・・売却損）

★解答②…固定資産売却の仕訳

(借) 現金 1,500,000 / (貸) 備品 3,500,000

(借) 未収入金 1,500,000

(借) 固定資産売却損 500,000

最後に①②の仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。

なお、①と②の貸方の備品勘定はひとつにまとめても、まとめずにそのまま残してもどちらでも正解です。

固定資産の売却に関する問題は、第 105 回の問 5や第 117 回の問 4、第 132 回の問 4、第 144 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。